

草の根技術協力（地域活性化特別枠）案件概要表

I. 事業の概要	
1. 対象国名	インドネシア国
2. 案件名	バンドン市における水道管路の維持管理のための点検技術に係る技術支援
3. 事業の背景と必要性	バンドン市の水道普及率は約 76.6%でおよそ 183 万人（2019 年）へ水道水の供給が行われているものの、市内全域において 24 時間給水が行われていない。さらに、1974 年にバンドン市水道公社が設立された際、資産管理情報がスムーズに移行されず、水道管路の埋設状況やバルブの位置等を把握しきれていないことに加え、既存のマッピングデータと現況に乖離が見られている。保守点検などの維持管理も行われていないことから、漏水事故等の断減水時に迅速かつ正確な対応ができないばかりか、応急的な対応に留まり水道の供給に支障をきたしている。こうした状況の中、今後、計画的な水道施設の維持管理を行うことが必要不可欠となる。本事業では、バンドン市水道公社に対し、水道管路を維持管理するための点検技術の共有を通じ、水道管路の健全性と安全性を確保する維持管理計画を作成し、水道管路を点検する技術とその必要性を理解した人材育成に取り組む。
4. プロジェクト目標	パイロット地区においてバンドン市水道公社が水道管路の維持管理をできるようになる。
5. 対象地域	バンドン市
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	バンドン市民、バンドン市水道公社（PERUMDA Tirtawening）及びバンドン市政府の公務員 約 50 名
7. 生み出すべきアウト プット及び活動	<アウトプット> 1. バンドン市水道公社特別チームメンバー（以下「特別チームメンバー」という。）が水道管路の点検ができる指導者として育成される。 2. 水道管路点検のために必要なマッピングデータが整理される。 3. 水道管路の維持管理計画が作成される。 4. 水道管路を点検する重要性についてバンドン市水道公社の監督員へ周知する。 5. バンドン市水道公社が保有するマッピングデータを適切に管理する方法及びバンドン市とインドネシアの法律と規制を考慮して、情報を共有する方法を提案する。 <活動> 1-1：特別チームメンバーへのヒアリング及びアンケート調査を行う。 1-2：パイロット地区における管路の調査、点検技術のワークショップを行う。 1-3：管路を点検するための管路点検チェックリストを作成し、パイロット地区で点検の実地研修を行う。 1-4：理解度試験を実施する。 2-1：交通量や管網などの状況を分析し、パイロット地区を選定する。 2-2：特別チームメンバーが点検記録の取り方や、基礎データ調査票（漏水調査・修繕記録等）に基づいた点検方法を習得する。 2-3：パイロット地区においてバルブ等の設置状況の実態を調査しマッピングデータに反映する。

	2-4：パイロット地区における現状のマッピングデータと現場踏査による現況を比較し、乖離部分について正しい情報に修正する。 3-1：特別チームメンバーに水道管路の維持管理計画作成のための講義を行う。 3-2：3-1に基づき、特別チームメンバーに水道管路の維持管理計画作成のためのワークショップを行う。 3-3：特別チームメンバーが水道管路の維持管理計画を作成する。 4-1：特別チームメンバーによるバンドン市水道公社の監督員向け講習会を開催する。 5-1：バンドン市政府における情報共有の状況をヒアリングし現況を把握する。 5-2：完成したマッピングデータを基にバンドン市水道公社内でワークショップを行い情報共有について課題と改善点を抽出する。 5-3：マッピングデータを適切に管理するための方法及び情報共有方法の提案書を作成する。
8. 実施期間	2025 年 4 月～2028 年 2 月（2 年 11 ヶ月）
9. 事業費概算額	54,384 千円
10. 相手国側実施機関 （カウンターパート）	バンドン市地方開発局
II. 団体の概要	
1. 実施団体／指定団体	浜松市（浜松市上下水道部）
2. 主な活動内容	・2017 年から 2019 年まで JICA 草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）において「バンドン市における漏水防止対策技術支援」を実施。 ・2019 年 6 月に、浜松市とバンドン市における両都市の発展に関する覚書（MOU）を締結。